

研究ノート

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

錦 織 亮 介

【研究ノート】

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

錦 織 亮 介

Abstract / Short Outline (概要)

There have been several studies about the painters who arrived in Nagasaki in the Edo period on Chinese ships, but no systematic research has yet been carried out on what was drawn and how many paintings were imported on Chinese ships.

There is a large number of Chinese paintings in Japan, and the "Japanese section" of the "General Catalogue of Chinese Painting" edited by the Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, has the most extensive collection of examples.

However, in order to get a complete picture of the Chinese paintings that were brought to Nagasaki, it is necessary to exclude the paintings that were not brought to Japan via Nagasaki as well as those that were collected in the modern period.

In addition, it is essential to carefully search the relevant references to the paintings from the remaining trade documents, art histories, essay collections and exhibition catalogues in Nagasaki.

In this paper, I have compiled a list of Chinese paintings imported to Nagasaki during the Edo period using both Japanese and Chinese historical documents based on the research of Nagazumi Yoko, who compiled information on Chinese paintings brought to Nagasaki based on Dutch historical documents.

キーワード：唐船輸入書画、唐蛮貨物帳、永積洋子

1. はじめに

旧稿「江戸時代の長崎来舶画人について」(『黄檗文華』139号、萬福寺文華殿、2020年)において、来舶中国書画人について諸資料から人名を拾い集めたが、舶載された明清書画の数量や内容については今後の課題として残した。

長崎に舶載された書画については、舶載書籍について大庭 脩氏が著す『江戸時代における唐船持渡書の研究』(関西大学東西学術研究所、1967年)のような体系的な研究書はまだ出されていない。長崎貿易関係史料にも輸入書画については断片的にしか見えず、元禄10年(1679)に長崎奉行に設けられた唐絵目利職関係資料にも具体的に記すところは少ない。

しかし、日本人の中国書画への熱い思いは、海外への渡航ができなかった江戸時代にも変わらず、中国貿易商を通じて多くの書画が輸入されたことは誰もが認めるところである。彭城百川の『元明清画人名録』には、江戸時代の展覧で見た元明清三朝の書画人は凡そ三千有余人と記している。また現在日本に伝存する中国絵画は、東京大学東洋文化研究所の『中国絵画総合目録』「日本篇」が最も広範囲に作例を集め、その数や膨大である。その明清画の中から江戸渡りの舶載画と近代のコレクションとを選別する作業が不可欠であるが簡単ではない。併行して江戸時代の長崎貿易関係史料や画史類・随筆集・展覧録などから丹念に関係史料を拾う作業も必要であるが、いずれもが筆者の力の及ぶところではない。

そこで本稿では、オランダ側の史料をもとにした永積洋子編『唐船輸出入品数量一覧 一六三七～一八三三年—復元 唐船貨物改帳・帰帆荷物買渡帳—』（創文社、1987年、以下『永積・唐船輸出入品数量一覧』と略称）を中心に、日本側の数少ない貿易史料である『唐蛮貨物帳』、『長崎御用留』（内閣文庫、1969～1970年）や、「永茂号の本売荷物表」（中村 質『近世長崎貿易史の研究』p.471）、「文化元年唐船十一艘舶載品目・数量表」（山脇悌二郎『長崎の唐人貿易』p.202）にみえる輸入書画類のデータを加え、江戸時代に輸入された貿易品としての中国書画類を時代を追って一覧表につくることを考えた¹。

とくに『永積・唐船輸出入品数量一覧』は、江戸時代の長崎港における中国船の輸出入積荷の詳細を、オランダ側の史料によって復元した労作である。商品名・数量の単位はいずれもオランダ語からの翻訳であり、巻末に「蘭日商品名対照表」が添えられている。

一方日本側の史料である『唐蛮貨物帳』は、宝永6年（1709）から正徳4年（1714）までと時期は限られるが、長崎に入港した中国船・オランダ船の積荷の品目や、日本で買入れた品目とその数量、代価等を船別に記した記録で、長崎の唐通事とオランダ通詞が作成して長崎奉行に提出し、長崎奉行から江戸に進達されたもので、幕府が貞享令の実行をみとるのに是非とも必要であったと考えられている。『長崎御用留』は、『唐蛮貨物帳』の前半と重複するが、後半に多い虫損箇所や欠落部分を補える史料で、長崎貿易改正一やがて正徳新令として実現する一の準備資料の一としてまとめられた可能性も指摘されている。正徳新令（1715年）の前後約30年間はオランダ側史料の輸出入品目録が欠けており、その間を補える史料でもある。

さらには一覧表をつくる作業の過程で、台北・中央研究院の劉序楓氏から新たな史料のご教示を得たのでこれを加えた。

・『清朝珍宝渡船記』国立国会図書館所蔵（李傑玲著『日本所蔵中日交流漢詩文写本』

黄山書社、2018年)。

- ・宮崎成身編『視聴草』第四集第三、内閣文庫所蔵（汲古書院、1955年）。
- ・『護送日記』国立国会図書館蔵（関西大学東西学術研究所資料集刊十三－三『寛政元年土佐漂着安利船資料―江戸時代漂着唐船資料集 三一』1989年）。
- ・『寧波船筆語（続海外異聞十）』静嘉堂文庫所蔵。（関西大学東西学術研究所資料集刊十三－六『寛政十二年遠州漂着唐船萬勝號資料―江戸時代漂着唐船資料集 六一』1997年）。

特に『護送日記』と『寧波船筆語』の漂着船積荷史料は、貿易船が長崎以外に漂着したときは、その地の役所は非日常のことゆえに長崎へ曳航する前に詳細な積荷記録を残した。日常的に長崎に入津する中国船の積荷や乗船者の名前は、ルーティーン化した奉行所の書類には残らないものだけに貴重である。

『永積・唐船輸出入品数量一覧』及び『唐蛮貨物帳』・『長崎御用留』・『永茂号の本売荷物表』・『文化元年唐船十一艘船載品目・数量表』・『清朝珍宝渡船記』・『視聴草』・『寧波船筆語』から中国輸入書画類を抜粋した一覧は後に掲げるが、それを集約した表をまず掲げておきたい。

中国船輸入書画類一覧（集約表）

品 目	件数	点 数	備 考
絵画（絵、画、図、画集、折本、巻絵、掛物、押絵）	210件	6829点（枚・幅・軸・巻・冊）、 87箱（束・包）、 （箱・包内の点数は不明）	絹地・紙地・綾子地・切細工・絵入簾、（雑絵・人物・肖像・美人、春意図・山水・羅漢・花鳥・草花・龍虎・馬・竹・百寿・遠近画）、
屏風	20件	167点（双・組・対）、	中国屏風・ビードロ細工・刺繍入・金文字入、
書・文字物	23件	294点（枚・軸・幅・巻）、1275箱、	絹地、紙地、（絵并文字物）、
版画・石摺	123件	70230点（枚・巻・冊）、111箱、	版本・版画帳・版画集・古版画・各種版画・最上古版画・屏風用版画・版本絵、
絵入紙	7件	1235点（枚・連）、6包、	絵入り紙・便箋・書箋（木版絵カ）、
扇子・団扇（書画の有無不明）	60件	23111点（本・個）、13 1箱（包・斤）、	各種絵入扇子・中国団扇・中国扇子・青貝骨扇子・金入扇子・最上扇子、
観音像	3件	6点（個）、	
各種絵具	1件	1点（26斤）、	
絵画用薄地	1件	5反	
合計	452件		
雑貨	268件		堆朱香箱、ぐりノごき、したん小ぼん、象牙線香箱、竹ノ彫物、めのふ仙人、花入、さかつぎ、ぼん、玉ノ作り物、箱墨、かねノ花入、かねノ手水鉢、かねノ小香炉、青磁花入、青磁鉢、土焼茶盆、絹地折本絵、絹地春意図、紙地折本絵、紙地竹ノ絵、紙地文字ノ物、りんず地文字ノ物、錦、金入、等（正徳元年12番南京船の小間物道具類）

美術史研究者が知りたい輸入書画類の作者についての記載は少なく、画題について記すものもわずかであり、雑絵・人物・肖像・美人・春意図・山水・羅漢・花鳥・草花・龍虎・馬・竹・百寿・遠近画などと簡単な記述に終わっている。長崎奉行がつくった中国船の積荷目録が基本にあり、船載積荷の数量的把握を目的にしてつくられた資料であるので、一部には絵目利の関与はあったにしても、船載書画類の内容にまで踏み込んだ資料ではなかったことに依るのであろう。

長崎貿易でもたらされた膨大な中国書画類について、その数量だけでも具体的な数字の一部がえられることの意味は少なくないと考える。本稿では一覧の内容からの種々の解析などは行えなかった。

永積氏は、オランダの史料は1739年以降欠落なく揃っているが、それ以前については諸史料を使って補ったと記しているが、それでも欠けた時期は多い。特に1667年～1725年までの58年間は、1682年の約4ヶ月を除いて記録がなく、この間に中国船は2800隻余が長崎に入港している。

勿論、筆者はオランダ側の原典に当たることはできないが、邦訳『平戸オランダ商館日記』（1627～1641）や『長崎オランダ商館日記』（1801～1823）の中には一部に重なる史料があることは確認できた。また日本側の史料である『唐蛮貨物帳』は、宝永六年（1709）から正徳4年（1714）までの6年間の記録しかないが、貨物の内容を具体的に記した数少ない史料であり、正徳新令（1715年）の前後約30年間はオランダ側史料の輸出入品目録が欠けており、その間を補える史料でもあることは前述した。

また国会図書館所蔵の『清朝珍寶渡船記』には、天明4年（1784）5・6・11月辰一番南京船、辰二番船、辰三番寧波船、辰四番厦門船、辰九番南京船、天明7年6月午十三番船の積荷が書かれているが、最後の天明7年6月午十三番船の積荷に近いものが、『永積・唐船輸出入品数量一覧』の天明7年十三番船の積荷にみえる。具体的な表記は異なるが品物としては類似する荷が多く、「牛角 1111本」は両本の間で数量が一致しているので、同じ船である可能性が考えられる。

宮崎成身編『視聴草』の天明8年（1788）三番船の積荷は、『永積・唐船輸出入品数量一覧』天明八年三番船の積荷と類似するものが多く、『視聴草』にみえる絵画16枚「沈石田真跡一軸、文徵明全一軸、邵瓜疇花草一軸、沈石田山水一軸、全 蟹蘭一軸、全 牡丹一軸、明人徐元嘉菊一軸、御製銅板耕織図一冊、米南宮真跡字一冊、銅板内外地理全図手巻二軸、全掛画一軸、仇十洲神駿図手巻一軸、漢式七環水晶印章一枚、西湖中景図書二匣」は、『永積・唐船輸出入品数量一覧』の「絵画 16枚」のことかもしれない。後述するが、オランダ側史料は長崎奉行の資料をオランダ語に訳したものであり、それを永積氏がさらに日本語に訳しているので、表記が次第に簡略化されることは避けられず、「元豊錦綉 十捲 四百疋」が「紋縮緬 400反」のごとくである。

『護送日記』の寛政元年（1789）土佐漂着安利船は、『永積・唐船輸出入品数量一覧』寛政元年十番船に相当するようであるが、積荷の書画類「海幔大青緑山水圍（圖カ）屏心十二幅、五綵美人図屏心十二幅、中牟循續手巻一個、人物春冊二部、相馬図手巻一個、墨蹟手巻一個、山水冊頁一部、伽楠香挿屏一對、耕種図冊頁一部、名人絹画二十八幅、天台図手巻一個、名筆花菓手巻一個、沈南蘋筆掛屏一個」は『永積・唐船輸出入品数量一覧』には記載が無い²。

『寧波船筆語』の寛政12年（1800）遠州漂着唐船萬勝號は、享和元年（1801）5月11日に長崎に曳航されて五番番外寧波船となるが、『永積・唐船輸出入品数量一覧』に該当する船は確認できていない。

永積氏が言うように、『永積・唐船輸出入品数量一覧』がオランダの史料の中から唐船の輸出入商品に関する記事をえらびだし、通詞がオランダ人に渡していた文書の原型、—「唐船貨物改帳」「帰帆荷物買渡帳」—への復元を試みたものであるのであれば、この一覧表の形式は「唐船貨物改帳」を範にしてつくられたものと考えられる。唐船の輸出入貨物を船ごとに品名と数量を書き連ね、その形式は1637年から1833年にわたり終始変わることなく統一感をもって整えられている。

オランダ側の情報収集は長年にわたっているので、オランダ通詞やコンプラ仲間などから恒常的に情報が得られたわけではなく、協力者を見つけにくい時期には情報収集に苦心したに違いない。日本側も外国への情報漏洩を防ぐために様々な措置をとっており、オランダ通詞達には血判の誓紙提出を求め、通詞の行動を見張る通詞目付役の設置などを行っていた状況下である。

オランダ側が欲しかったのは中国船の積荷情報であるが、情報源は長崎奉行がつくった唐船の積荷目録を第一次史料とすれば、オランダ通詞がそれを密かに入手しオランダ語に翻訳したものが二次史料（写真）で、それを受け取ったオランダ商館員がジャガタラの総督に送るべく形式を整えたものが三次史料であり、更にそれはオランダ本国に送られている。原史料はこの間に日本語からオランダ語へ訳され、一定の形式に整えられ、それを永積氏がオランダの史料から抜き出し、オランダ語から日本語へ翻訳し一覧の形式につくったものであり、永積氏の一覧が整った形式を持つ理由でもある。

その一覧中から筆者が書画類の項目だけを抽出し、それに『唐蛮貨物帳』・『長崎御用留』・『永茂号の本売荷物表』・『文化元年唐船十一艘船載品目・数量表』・『清朝珍宝渡船記』・『視聴草』・『護送日記』・『寧波船筆語』にみえる書画類を加えたものが本稿の「中国船輸入書画類一覧表」である。

ところで『永積・唐船輸出入品数量一覧』を通覧すると、輸入された書画類の品名と数量とが具体的に書かれている船名と、書画類の記載はないが「雑貨」の項目があ

る船名とがある。「雑貨」と書かれた船荷の中には書画類が含まれていた可能性が高い。「雑貨」の項がある船には書画類の記載がないものが多く、1642年～1666年（24年間）の輸入書画類は24件しかないが、「雑貨」の項目は255件ある。この間に中国船は1100隻余が長崎に入港している。255件の中には「雑貨」とは別に書画類をあわせて掲げる例もあるが、わずか12例である。ちなみに後述する『唐蛮貨物帳』には、輸入書画類の記載は「小間物道具」の内わけの中にほとんどが含まれている。永積氏が「雑貨」と記す項目と『唐蛮貨物帳』の「小間物道具」とは類似する括りである可能性が高い。1667年から1725年（58年間）の間はオランダ側の史料は欠けているが、それ以後の1833年までには「雑貨」の項目は極めて少なく13例だけで、書画類は「雑貨」から独立した項目として一覧中に書き上げられている。

「雑貨」の項目は1642年～1666年の24年間に集中して使われ、それ以後では極端に減っているといえる。1637年から1833年という長い期間の間には、積荷の表記や整理の仕方にも違いがあったであろうが、「雑貨」と「小間物道具」についてはいまだ少し触れておきたい。

2. 「雑貨」と「小間物道具」

『永積・唐船輸出入品数量一覧』に書かれた唐船積荷は、年次の入港船ごとに、主要輸入品である生糸、絹織物、薬種、砂糖、皮などから順にならべ、「雑貨」はほとんどが最後に付け加えられ、内わけは記されておらず数量の単位は箱、包、束、俵などが多く無記入のものもあり、主要な積荷ではなかったことを示している。

『広辞苑』には「雑貨」について、「雑多な貨物、こまごまとした日用品」と記されており、昔ながらの荒物雑貨店のイメージがあるが、いま街にあふれる雑貨ショップに並ぶ品々は、昔の雑貨屋とは大きく異なっている。雑貨という言葉がもつ内容は、時代によって異なるし、国によっても異なるのであろう。ただ『永積・唐船輸出入品数量一覧』の記述では、まとめて箱や俵に入れ、包や束にされていた商品のように読めるが、オランダ通詞が雑多な品名を書き上げる煩をさけるためもあったかもしれない。

同じ永積氏訳『平戸オランダ商館の日記』第4巻「フランソワ・カロンの日記」（1640年11月）に、この年に大小74隻のシナジャンク船でもたらされた商品の覚え書があり、主要な積荷である生糸・織物・薬種・砂糖などの商品名・量・値段から順に書かれ、最後に「各種の値段と形の雑貨、針、眼鏡、櫛など。」と記されている。これは「各種の値段と形の雑貨、（内わけは）針・眼鏡・櫛など」の意味と思え、主要商品でない種々の品々を最後にまとめる「その他いろいろ」的書き方で、「各種の値段と形の雑貨」として記したように感じられる。ここでも永積氏は「雑貨」と邦訳している

が、「雑貨」の中に内わけが記された唯一の例である。

この商品の目録は、代官末次茂貞（二代平蔵）が「封印された覚書」として通詞にもたせ平戸オランダ商館長フランソワ・カロンに届けたものであり、この記載形式が約70年後の『唐蛮貨物帳』にみえる積荷記載形式と同一であることは注目される。後述する『唐蛮貨物帳』には「雑貨」の項目はなく「小間物道具」と記され、いずれもその内わけが書かれ、小さくて壊れやすい高価な品が多く、これらを最初から1箱、1包にして積んできたとは思えなく、荷改めや荷揚げの際に箱や包にまとめたと考えたい。

唐船の積荷は船主・荷主の荷が主であったが、唐船には様々な職業と身分の中国人「附塔小客」も乗っており、彼らは商売と遊楽を目当てに来崎していたと思われ、個別に持っていた商品も長崎入港に際しての荷改めに対応すべく一緒にして品別にまとめられた可能性がある。

永積氏はオランダ語の「cleinheden」、「cramerij」を「雑貨」と訳したことを末尾の「蘭日商品名対照表」に書いている。

オランダ語辞典によれば、日蘭交易に関する一次資料の用語法に照らしてはいないものの、辞典を参照した範囲では、二つの単語ともおよそ「小さな貴重な品々」という意味になる可能性がある。cleinhedenのcleinは現代語のklein（小さい）とも関連づけられるが、中世オランダ語辞典（Middelnederlandsch Woordenboek）にはcleinheitという単語があり、cleenheit, cleenheide, cleenhede, clenede, clenhedeという表記のヴァリエーションも掲載され、cleinheidenも発音としてもこれらに近い。この辞典によると、cleinheitは小さいという意味に加え、細やかな、美しい、洗練されたといったニュアンスを含み、小さな貴重な品々、宝石、宝飾品（現代語ではkleinood）という意味になる可能性がある。cramerijに関しては、オランダ語辞典（Woordenboek der Nederlandsche Taal）にkramerijという単語があり、この辞典によると、kramerijは現代語kraam（小売商、屋台のような形の小売商）に関連すると考えられ、少量で売ることができるよう細々とした品々を意味し、派生的に、家庭で使う品々、貴重な品々、趣味の品々、装身具類、鋼製品、文具品や化粧道具といった類品を意味するとある（出典：オランダ語辞典<https://gtb.ivdnt.org/search/?owner=WNT> 2021年4月2日閲覧）。

永積氏は、『唐船輸出入品数量一覧』は「通詞がオランダ人に渡していた文書の原型、―「唐船貨物改帳」「帰帆荷物買渡帳」―への復元を試みたものである」記しているが、オランダ語の「cleinheden」、「cramerij」の訳を「小間物道具」とせず「雑貨」としているのには何らかの理由があったのであろう。永積氏は『平戸オランダ商館の

日記』の「はしがき」のなかで「語脈の全く異なる日本語への翻訳のため、メーリンク女史（ハーグ国立中央文書館部長）の説明に基づき、訳者の判断に於いて適当と思われる訳語を選んだことも度々あった。」とも記されている。

『唐蛮貨物帳』の「小間物道具」の内わけの一例をあげる。

「正徳元卯年六月二日 拾貳蛮南京出シ 唐船貨物改帳 船頭蕭聖兆 人数三拾貳人」の条

「小間物道具 五個 内 堆朱香箱、ぐりノごき、したん小ぼん、象牙線香箱、竹ノ彫物、めのふ仙人、花入、さかづき、ぼん、玉ノ作り物、箱墨、かねノ花入、かねノ手水鉢、かねノ小香炉、青磁花入、青磁鉢、土焼茶盆、絹地折本絵、絹地春意図、紙地折本絵、紙地竹ノ絵、紙地文字ノ物、りんず地文字ノ物、錦、金入、以上」

この「小間物道具」には、書画を含め26種の品々が挙げられている。大きなものはないが種類も材質も多様で、今で言う工芸品に近い。正徳元年には53隻の中国船が入港しており、その全体の積荷内容は山脇悌二郎著『長崎の唐人貿易』（吉川弘文館、1964年）109頁に一覧があるので参照いただきたい。

53隻の中国船に記載された「小間物道具」は、絵、屏風、書（文字ノ物）、扇子、版画などの書画類のほか、香炉、盆、箱、櫛花生、盃、茶碗、硯屏、数珠、碁器、めがね、飾り物、印判石、硯、筆立などがある。材質の記入も実に多様で、かね、銅、真鍮、堆朱、屈輪、漆、蒔絵、鼈甲、水牛、珊瑚、琥珀、青貝、瑪瑙、青磁、土焼、錦手、嵌入、ビードロなどが併せて記されている。通詞はオランダ語に訳すのに苦労したであろうし、オランダ人も品物のイメージが難しい品々もあったであろう。

筆者が、「雑貨」と「小間物道具」について縷々と述べてきたのは、永積氏が「雑貨」と記しているものは、『唐蛮貨物帳』の「小間物道具」に相当する内容であり、書画類が含まれていた可能性を考えているためである。つまり『永積・唐船輸出入品数量一覧』に書画類の記載がなくても「雑貨」の記載がある船には、書画類の積荷があった可能が強いと考えられる。前述したように、1642年～1666年（24年間）の間の輸入書絵類が24件しか記されていないのは少なく、255件の「雑貨」の中に含まれていた書画類を考えておく必要があると思える。

また、『永積・唐船輸出入品数量一覧』や『唐蛮貨物帳』に記載されたものは、ともに長崎奉行がつくった公的な記録がもとになっているが、輸出入品のすべてが記録されているわけではないことは『永積・唐船輸出入品数量一覧』の「解説」（後出）にも書かれている。表向きの貿易の他に半ば公然と行われていた密貿易については、

その量の多さについても長崎奉行、オランダ商館ともに認識しており、それを把握しない限り貿易の総量を正しく知ることが出来ないのは事実であり、当然密輸による書画類があったことも考えておくべきであろう。

江戸時代の彭城百川『元明清書画人名録』（安永6年開版）には、元明清三朝の書画人を広く抄記し凡そ3000有余人を収めており、その凡例に「凡そ此に挙ぐる真蹟は展覽について集むる所」と記されている。3000有余人の書画を展覽で観たものから集めたと記すことは、にわかには信じ難い数字であったが、「中国船輸入書画類一覧（集約表）」に掲げた書画類の量は膨大で、公的な記録から漏れた書画類の数を勘案しなくてもそれを満たしている気がする。

「中国輸入書画一覧表」は現時点での筆者の知見の範囲でつくったものであり、多くの漏れがあることは明瞭であり、以後更なる事例のご教示が加わることを願う。

※書画等の奢侈品輸入禁止期間

『唐通事会所日録』の寛文8年（1668）3月22日の条に、「異国より持ち渡りまじき品々の覚え」があり、そのなかに書画類を含む「小間物道具」がある。書画が「小間物道具」の中に含まれていたことも興味深いのが、翌寛文九年から実施されている。これは中国内の騒乱や遷海令の影響で中国船の来航が減り、絹糸・薬種をはじめとした主要品の輸入量減少にともない価格が高騰したことへの対処法として、中国書画を始めとする奢侈品の類をなくし、最重要品であった生糸、絹織物、薬種などの量が相対的に増えるのを期待したためと思われる。「小間物道具」の具体的内容については前述したが、禁止令が出されるほどの輸入量があったことが推測され、軽量で高価に売れる商品としての書画を、目端が利く中国商人が見逃すはずはなかったであろう。

3. 中国船輸入書画類一覧表

「中国船輸入書画類一覧表」は『永積・唐船輸出入品数量一覧』と『唐蛮貨物帳』・『長崎御用留』・『永茂号の本売荷物表』（中村 質）・『文化元年唐船十一艘船載品目・数量表』（山脇悌二郎）・『清朝珍宝渡船記』・『視聴草』・『寧波船筆語』・『護送日記』・『寧波船筆語』より輸入書画類を抜粋した一覧表である。

永積氏が使用したオランダ語の史料はいくつかあり複雑でもあるので、その理解を容易にするため『永積・唐船輸出入品数量一覧』の「凡例」と「あとがき」の一部を後出した。またオランダ商館の中国船積載情報の入手方法について「解説」の一部を引用した。

中国船舶輸入書画類一覧表(永積洋子編『唐船輸出入品数量一覧 1637～1833年』及び『唐貨物帳』『長崎御用留』『清朝珍宝渡船記』『視聴草』『護送日記』『寧波船筆語』等より抜粋)

通番	和 暦	出 典 (西 暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
1	寛永16年	「オランダ商館日記」「バタヴィア城日誌」「東インド到荷文書」 「唐船輸入品年度別目録」(A.J.55)	93隻	屏風	11双	「唐船輸入品年度別目録」
2				団扇	200本	「唐船輸入品年度別目録」
3				絵	16枚	『平戸オランダ商館の日記』 第4巻299頁
	寛永18年 1641	出島にオランダ商館が移る				
4	寛永20年	1643.6.8 (A.J.57)	南京船	屏風	1双	
5	正保1年	1644.6.14 (A.J.58)	13隻(昨年出帆し6月15日までに到着した船)	茶道具・団扇・書籍・櫛・鏡など雑貨	?	「唐船輸入品年度別目録」
6	正保1年	1644.11.14 (A.J.59)	54隻	中国扇	7箱	「唐船輸入品年度別目録」
7	慶安2年	1649.11.5 (A.J.62)	50隻	絵画	74枚	「唐船輸入品年度別目録」
8	慶安3年	1650.2.26 (V.O.C.1182)	福州船	屏風	1双	
9		1650.9.18 (V.O.C.1182)	咬啗吧船	中国絵	1枚	
10	承応2年	1653.8.19 (A.J.823)	広南船	絵画	20枚	(A.J.823)は「中国ジャンク船により長崎に運ばれた商品目録」と題す独立文書
11		1653.8.26 (A.J.823)	南京船	中国画	2束	(A.J.823)は「中国ジャンク船により長崎に運ばれた商品目録」と題す独立文書
12		1653.8.27 (A.J.823)	安海船	中国絵画	30枚	(A.J.823)は「中国ジャンク船により長崎に運ばれた商品目録」と題す独立文書
13	承応3年	1654.5.30 (V.O.C.1207)	福州船	中国絵入紙	5枚	
	承応3年7月5日隠元来日	1654.7.5				
14		1654.7.29 (V.O.C.1207)	南京船	中国扇子	9本	
15	承応2～3年	1653.10.29～1654.9.25 (V.O.C.1207)	42隻	中国絵画	20包	「唐船輸入品年度別目録」
16	明暦1年	1655.2.11 (A.J.68) (V.O.C.1213)	安海船	中国絵	1束	
17		1655.8.11 (A.J.68) (V.O.C.1213)	泉州船	中国絵	3束	
18		1655.8.18 (A.J.68) (V.O.C.1213)	泉州船	中国絵	2箱	

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

19		1655.8.25 (A.J.68) (V.O.C.1213)	安海船	絵	3箱	
20		1655.8.31 (A.J.68) (V.O.C.1213)	安海船	絵	3包	
21		1655.9.10 (A.J.68) (V.O.C.1213)	安海船	絵	1包	
22	明暦1年	1655.7.4 ~ 10.19 (A.J.68、V.O.C.1213)	(45隻)	絵画	11箱	「唐船輸入品年度別目録」
	明暦元年糸割符制終 わる	1655年				
23	明暦3年	1657.4.7 (V.O.C.1223)	安海船	画集	5包	
24		1657.7.13 (V.O.C.1223)	安海船	絵画	1包	
25		1657.7.14 (V.O.C.1223)	安海船	中国画集	3包	
26		1657.7.14 (V.O.C.1223)	安海船	絵入り紙	1包	
27		1657.7.20 (V.O.C.1223)	安海船	絵画	1包	
28		1657.7.24 (V.O.C.1223)	安海船	絵画	1包	
29		1657.8.11 (V.O.C.1223)	東埔寨船カンボジア	中国絵入り紙	4包	
30		1657.8.21 (V.O.C.1223)	安海船	中国団扇	50本	
31				団扇	10包	
32		1657.8.22 (V.O.C.1223)	東埔寨船カンボジア	絵入り紙	1包	
33	明暦3年	1657.3.1 ~ 8.22 1657.10.26 (A.J.70)	46隻	絵画	9包 * 一部重複か	「唐船輸入品年度別目録」
34				中国団扇	51本 * 一部重複か	「唐船輸入品年度別目録」
35	万治1年	1658.7.22 (V.O.C.1228)	安海船	中国画集	1包	
36		1658.8.8 (V.O.C.1228)	広南船	中国絵画	1包	
37	万治2年	1659.7.1 ~ 9.28 (V.O.C.1230)	40隻	漢籍・絵画・紙・日傘など	50箱	「唐船輸入品年度別目録」
38	寛文5年	1665 (V.O.C.1254)	(36隻)	中国団扇	3531本	「唐船輸入品年度別目録」
	寛文12年貨物市法始まる	1672年				
	貞享元年 清・展海令	1684年				
	貞享2年定高貿易法始まる	1685年				

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
	絵画等の奢侈品の輸入禁止期間 寛文9年(1669)～元禄10年(1697)	「オランダ商館日記」「バタヴィア城日誌」「東インド到藩文書」「唐船輸入品年度別目録」「唐蜜貨物帳」等 1669～1697年				
39	宝永6年9月24日	1709年「唐船貨物改帳」	42 番南京出シ、船頭王能珍	紙地美人絵	80枚	『唐蜜貨物帳』
40	正徳元年5月29日	1711年「唐船貨物改帳」	10 番寧波出シ、船頭齊其公	絵井文字物	6軸	『唐蜜貨物帳』
41	正徳元年6月2日	1711年「唐船貨物改帳」	12 番南京出シ、船頭蕭聖兆	□絹地折本絵(小間物道具)	1冊	『唐蜜貨物帳』
42				同春意図	1軸	『唐蜜貨物帳』
43				紙地折本絵	1冊	『唐蜜貨物帳』
44				同竹ノ絵	1枚	『唐蜜貨物帳』
45				同文字ノ物	8軸并1枚	『唐蜜貨物帳』
46				綸子地文字物	1枚	『唐蜜貨物帳』
47	正徳元年6月3日	1711年「唐船貨物改帳」	13 番南京出シ、船頭鍾聖玉	青貝骨扇子(小間物道具)	1本	『唐蜜貨物帳』
48	正徳元年6月3日	1711年「唐船貨物改帳」	13 番南京出シ、船頭凌素言	絹地山水之図(小間物道具)	1軸	『唐蜜貨物帳』
49				同春意図	1軸	『唐蜜貨物帳』
50				絹地文字物	4幅	『唐蜜貨物帳』
51				紙地雑絵	87幅	『唐蜜貨物帳』
52				同縫ノ絵	5幅	『唐蜜貨物帳』
53				同文字物	5幅	『唐蜜貨物帳』
54	正徳元年6月6日	1711年「唐船貨物改帳」	17 番寧波出シ、船頭洪超英	唐絵井文字物	2幅	『唐蜜貨物帳』
55	正徳元年6月8日	1711年「唐船貨物改帳」	25 番南京出シ、船頭翁牧吉	絹地巻絵	1軸	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
56				絹地折本春意図	1冊	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
57	正徳元年6月8日	1711年「唐船貨物改帳」	23 番南京出シ、船頭陳超倫	絹地春意図(小間物道具)	1軸	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
58		(長崎御用留では6月7日とあり)		同人物ノ絵	1幅	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
59				同美人巻絵	1幅	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
60				紙地山水巻絵	1幅	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
61				紙地織絵	3幅	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)
62	正徳元年6月9日	1711年「唐船貨物改帳」	26 番南京出シ、船頭劉以熾	紙地文字物(小間物道具)	1幅	『唐蜜貨物帳』(長崎御用留)

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

63				同文字ノ巻物	1軸	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
64				同絵	1幅	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
65	正徳元年6月15日	1711年「唐船貨物改帳」	28番南京出シ、船頭駱九宜	つの骨金地扇子 (小間物道具)	10本	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
66				紙地花鳥絵	2枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
67	正徳元年6月16日	1711年「唐船貨物改帳」	33番南京出シ、船頭陳世枢	絹地絵 (小間物道具)	1枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
68	正徳元年6月17日	1711年「唐船貨物改帳」	35番南京出シ、船頭李大成	紙地雑絵 (小間物道具)	120枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
69	正徳元年6月18日	1711年「唐船貨物改帳」	37番寧波出シ、船頭王国官、王能珍	同春意折本 (小間物道具)	1冊	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
70				絹地山水折本絵	1冊	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
71				同鞆鞆絵	1軸	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
72				同山水絵	1軸	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
73				同雑絵	7枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
74				紙地山水絵	2幅	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
75				同馬ノ絵	1幅	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
76				同龍虎絵	1軸	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
77				同雑絵	10枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
78				同文字ノ物	13枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
79				石摺竹ノ絵	2枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
80	正徳元年6月19日	1711年「唐船貨物改帳」	42番寧波出シ、船頭陳利折	切細工折本春意図 (小間物道具)	2冊	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
81				紙地美人絵	2枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
82				同山水絵	1枚	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
83	正徳元年11月4日	1711年「唐船貨物改帳」	43番台湾出シ、船頭潘漢馨、陳志会	絹地絵	1幅	『唐蜜貨物帳』、(長崎御用留)
84	正徳2年6月15日	1712年「唐船貨物改帳」	21番寧波出シ、船頭王在珍	絹地ノ押絵	12枚	『唐蜜貨物帳』
85				紙地山水絵	1枚	『唐蜜貨物帳』
86				同文字ノ物	1巻	『唐蜜貨物帳』
87	正徳2年6月15日	1712年「唐船貨物改帳」	20番普陀出シ、船頭尹楚元	紙地巻絵 (小間物道具)	1軸	『唐蜜貨物帳』
88				同折本絵	1冊	『唐蜜貨物帳』
89				同雑絵	136枚	『唐蜜貨物帳』

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
90				唐扇子	10本	『唐蜜貨物帳』
91	正徳2年6月25日	1712年「唐船貨物改帳」	39 番寧波出シ、船頭程益九	紙地らかんノ折本	1冊	『唐蜜貨物帳』
92				石摺観音	500枚	『唐蜜貨物帳』
93	正徳2年6月21日	1712年「唐船貨物改帳」	36 番東京出シ、船頭施時霖	紙地らかんノ絵	1軸	『唐蜜貨物帳』
94	正徳2年8月14日	1712年「唐船貨物改帳」	55 番暹羅出シ、船頭徐旭如	紙地雑絵	6幅	『唐蜜貨物帳』
95	正徳2年8月21日	1712年「唐船貨物改帳」	57 番南京出シ、船頭翁牧吉	綸子地絵 (小間物道具)	3幅	『唐蜜貨物帳』
96				同縫ノ物	7ツ	『唐蜜貨物帳』
97				同文字ノ物	4幅	『唐蜜貨物帳』
98				同奏軸	1幅	『唐蜜貨物帳』
99				絹地雑絵	2枚	『唐蜜貨物帳』
100				紙地雑絵	43幅	『唐蜜貨物帳』
101				同文字ノ物	33幅	『唐蜜貨物帳』
102				石摺百寿図	1幅	『唐蜜貨物帳』
103				板木絵	63枚	『唐蜜貨物帳』
104	正徳2年8月22日	1712年「唐船貨物改帳」	58 番南京出シ、船頭李大成	紙地仙人ノ絵 (小間物道具)	1幅	『唐蜜貨物帳』
105				同文字ノ物	1幅	『唐蜜貨物帳』
106	正徳3年6月29日	1713年「唐船貨物改帳」	7 番南京出シ、船頭駱九宣	綸子百寿図 (小間物道具)	1幅	『唐蜜貨物帳』
107				絹地ノ絵井文字物	14幅	『唐蜜貨物帳』
108				同巻絵	2幅	『唐蜜貨物帳』
109				紙地絵井文字物	3幅	『唐蜜貨物帳』
110				同雑絵	105枚	『唐蜜貨物帳』
111	正徳3年10月4日	1713年「唐船貨物改帳」	29 番南京出シ、船頭王拙庵	絹地花鳥ノ絵 (小間物道具)	1軸	『唐蜜貨物帳』
112				同文字ノ物	1軸	『唐蜜貨物帳』
113				同山水ノ絵	1枚	『唐蜜貨物帳』
114				同人物ノ絵	1枚	『唐蜜貨物帳』
115				同草花ノ絵	1冊	『唐蜜貨物帳』
116				紙地雑絵	10幅	『唐蜜貨物帳』

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

117						紙地石摺	1軸	『唐蜜貨物帳』
118						同文字物	1軸	『唐蜜貨物帳』
119	正徳3年10月6日	1713年「唐船貨物改帳」			30 番寧波出シ、船頭薛司有	ビイドロ細工屏風	10枚	『唐蜜貨物帳』
120	正徳3年10月7日	1713年「唐船貨物改帳」			31 番寧波出シ、船頭鄭大誌	三才図絵	1部	『唐蜜貨物帳』
121	正徳3年10月23日	1713年「唐船貨物改帳」			33 番台湾出シ、船頭謝愷臣	春意図	8冊	『唐蜜貨物帳』
	正徳5年 海船互市新 例始まる	1715年 (正徳新例)						
122	寛保1年	1741.8.6 (A.J.151)			十二番船	中国扇子	2000個	
123	延享1年	1744.3.26 (A.J.154)			寧波船	掛け物	1点	
124	宝暦3年	1753.2.7 (A.J.163)			四番乍浦船	扇子	1包	
125	宝暦4年	1754.8.3 (A.J.164)			十四番乍浦船	中国扇子	1000本	
126		1754.9.27 (A.J.164)			二十六番南京船	版画	?	
127	宝暦6年	1756.4.27 (A.J.166)			四番船	中国扇子	100本	
128	宝暦7年	1757.9.12 (A.J.167)			五番船	扇子	1330本	
129	宝暦9年	1759.4.3 (A.J.169)			乍浦船	扇子	3箱	
130	宝暦10年	1760.8.5 (A.J.170)			十四番厦門船	金入扇子	1150本	
131		1761.1.20 (A.J.171)			乍浦船	版画	448枚	
132	宝暦12年	1762.3.16 (A.J.172)			四番船	扇子	200本	
133		1763.2.6 (A.J.173)			二番寧波船	中国画	3箱	
134						面集	1箱	
135	延宝13年	1763.6.28 (A.J.173)			六番乍浦船	扇子	200本	
136						屏風	3双	
137		1763.8.18 (A.J.173)			十二番寧波船	扇子	400本	
138		1763.8.25 (A.J.173)			十四番乍浦船	版画	11枚	
139						扇子	3箱	
140	明和1年	1764.2.14 (A.J.174)			二番乍浦船	扇子	2000本	
141						中国版画	60巻	
142		1764.4.7 (A.J.174)			三番乍浦船	中国扇子	200本	
143		1764.6.12 (A.J.174)			五番乍浦船	中国扇子	7箱	
144		1764.7.25 (A.J.174)			七番乍浦船	扇子	1600本	

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
145	明和2年	「オランダ商館日記」「バタヴィア城日誌」「東インド到着文書」 「唐船輸入品年度別目録」「唐船貨物帳」等	三番乍浦船	扇子	100箱	
146		1765.3.23 (A.J.175)		版画	4000枚	
147		1765.8.12 (A.J.175)		扇子	1108本	
148				屏風	1双	
149			九番乍浦船	扇子	30本	
150				版画	20枚	
151				掛軸	2本	
152		1765.8.13 (A.J.175)	十一番寧波船	版画	1箱	
153				版画	12枚	
154		1766.1.21 (A.J.176)	二番乍浦船	版画	8000枚	
155	明和3年	1766.2.13 (A.J.176)	三番乍浦船	版画	30500枚	
156				便箋	1000枚	
157		1766.3.1 (A.J.176)	四番乍浦船	中国画	4冊	
158				中国画	1巻	
159		1766.4.26 (A.J.176)	五番Epha船	古版画	4枚	
160			六番乍浦船	屏風	12双	
161		1766.7.10 (A.J.176)	七番乍浦船	版画	5150枚	
162				版画	24枚	
163		1766.7.31 (A.J.176)	八番乍浦船	絵画	64枚	
164			九番乍浦船	絵画	79枚	
165				屏風	20双	
166		1766.8.9 (A.J.176)	十一番寧波船	古版画	1枚	
167		1766.8.24 (A.J.176)	十三番乍浦船	版画	3枚	
168				版画	1枚	
169	明和4年	1767.5.11 (A.J.177)	一番乍浦船	各種絵入扇子	100本	
170				各種版画	56枚	
171				刺繍入屏風	4双	

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

172				二番定海船	絵入掛物	100組	
173					版画	176巻	
174		1767.8.7 (A.J.177)		三番乍浦船	版画	20枚	
175					版画	20箱	
176					版画	12枚	
177					版画	36枚	
178					版画	15枚	
179		1768.1.27 (A.J.178)		三番乍浦船	絵画	129枚	
180					版画	1000枚	
181				四番乍浦船	版画	138枚	
182					版画	36枚	
183	明和5年	1768.3.29 (A.J.178)		五番乍浦船	版画	21枚	
184		1768.4.6 (A.J.178)		六番乍浦船	版画	15000枚	
185				七番乍浦船	版画	2072枚	
186					人物画	3箱	
187		1768.8.2 (A.J.178)		八番南京船	各種版画	1102枚	
188		1768.8.8 (A.J.178)		十二番乍浦船	版画	1枚	
189					版画帳	1冊	
190		1768.12.13 (A.J.179)		一番乍浦船	扇子	2箱	
191		1769.1.20 (A.J.179)		二番乍浦船	版画	133枚	
192	明和6年	1769.2.15 (A.J.179)		四番乍浦船	版画	185枚	
193					版画集	10冊	
194		1769.6.13 (A.J.179)		七番乍浦船	古版画帳	1冊	
195		1769.7.27 (A.J.179)		十番乍浦船	絵画	18枚	
196		1769.8.10 (A.J.179)		十四番乍浦船	絵画	2枚	
197		1769.12.26 (A.J.180)		乍浦船	絵画	1枚	
198		1769.12.27 (A.J.180)		乍浦船	中国屏風	13双	
199				乍浦船	版画集	1冊	
200					書簡箋	200連	

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
201				最上赤 //	30連	
202	明和7年	1770.3.25 (A.J.180)	三番乍浦船	絵画	70枚	
203				版画集	22冊	
204				版画	12枚	
205			四番乍浦船	金文字入屏風	3双	
206				中国扇子	200本	
207		1770.8.8 (A.J.180)	六番乍浦船	中国扇子	1箱	
208		1770.8.12 (A.J.180)	七番乍浦船	各種絵具26斤	154匁	
209		1770.8.31 (A.J.180)	十番乍浦船	版画	12枚	
210		1770.12.30 (A.J.181)	十三番船	絵入屏風	12組	
211	明和8年	1771.4.18 (A.J.181)	四番船	絵画	1組	
212			六番船	絵画	3組	
213		1771.7.31 (A.J.181)	七番乍浦船	中国扇子	4000本	
214		1771.8.9 (A.J.181)	十番乍浦船	中国扇子	2000本	
215		1771.12.24 (A.J.182)	乍浦船	絵画	20枚	
216		1772.1.11 (A.J.182)	四番乍浦船	中国扇子	160本	
217	安永1年	1772.3.10 (A.J.182)	船1隻	大絵画	1枚	(奉行用)
218		1772.4.20 (A.J.182)	船1隻	屏風	26双	
219			六番船	版画	300枚	
220	安永2年	1773.2.15 (A.J.183)	一番乍浦船	中国絵画	5枚	
221				中国遠近画	1枚	
222		1773.4.12 (A.J.183)	五番乍浦船	中国絵画	3枚	
223		1773.9.15 (A.J.183)	九番乍浦船	十二枚折中国屏風	1対	
224		1774.2.2 (A.J.184)	乍浦船	大絵画	131枚	
225	安永3年	1774.4.9 (A.J.184)	三番乍浦船	絵画	480枚	
226			四番船	絵巻物	8本	
227		1774.5.3 (A.J.184)	乍浦船	最上扇子	100個	

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

228					絵画	14冊	
229		1774.7.22 (A.J.184)	六番乍浦船		絵画	6巻	
230		1774.7.25 (A.J.184)	七番船		絵画	4枚	
231			八番船		絵画	11巻	
232		1774.12.27 (A.J.185)	十二番船		絵画	1800枚	
233			一番船		絵画	1巻	
234		1775.1.7 (A.J.185)	二番船		絵画	4枚	
235	安永4年	1775.5.3 (A.J.185)	六番船		扇子	300本	
236		1775.7.3 (A.J.185)	八番船		扇子	153斤ママ	
237					古版画	3巻	
238		1775.7.23 (A.J.185)	九番乍浦船		版画	6巻	
239					版画	3冊	
240			十番乍浦船		版画	1巻	
241		1775.7.30 (A.J.185)	十一番乍浦船		扇子	70本	
242		1775.8.31 (A.J.185)	十二番乍浦船		屏風	10組	
243					版画	2巻	
244					版画	24枚	
245					花鳥版画	32枚	
246	安永5年	1776.2.23 (A.J.186)	一番乍浦船		最上古版画	3巻	
247					屏風用版画	24枚	
248			二番定海船		古版画	8枚	
249		1777.1.11 (A.J.187)	乍浦船		中国版画	105枚	
250					中国屏風	1双	
251	安永6年	1777.4.11 (A.J.187)	三番乍浦船		絵画	60枚	
252					版画	30枚	
253			四番乍浦船		絵画	273枚	
254			五番乍浦船		絵画	50枚	
255					屏風	32双	
256		1777.4.30 (A.J.187)	六番船		絵画	5枚	

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
257		「オランダ商館日記」[バタヴィア城日誌]「東インド到着文書」 「唐船輸入品年度別目録」「唐船貨物帳」等 1777.12.24 (A.J.188)	十一番船	屏風	1双	
258		1778.1.11 (A.J.188)	十三番船	版画	4枚	
259			(前年度) 一番船	版画	2枚	
260	安永7年	1779.1.15 (A.J.189)	十一番船	版画	12枚	
261				版画	40枚	
262			十三番船	書	1260箱	
263		1779.1.27 (A.J.189)	船1隻	書	15箱	
264	安永8年	1779.4.9 (A.J.189)	三番船	屏風	5対	
265		1779.7.24 (A.J.189)	四番乍浦船	版画	6枚	
266			五番乍浦船	古版面	39枚	
267		1779.11.4 (A.J.189)	船1隻	絵画	88枚	
268				八枚折中国屏風	2双	
269		1780.1.14 (A.J.190)	八番乍浦船	版画	100枚	
270				古版面	6枚	
271	安永9年	1780.4.25 (A.J.190)	十二番乍浦船	絵画	40枚	
272			十三番乍浦船	絵画	7種	
273		1780.12.27 (A.J.191)	七番乍浦船	絵画	5枚	
274	天明1年	1781.2.10 (A.J.191)	十番乍浦船	絵画	30枚	
275				書	1巻	
276				絵画	1巻	(將軍・奉行用)
277		1781.2.25 (A.J.191)	十一番乍浦船	絵画	2巻	(奉行用)
278		1781.4.16 (A.J.191)	一番乍浦船	絵画	1巻	
279		1782.1.24 (A.J.192)	十番乍浦船	絵画	138枚	
280				絵画用薄地	5反	(奉行用)
281	天明2年	1782.3.1 (A.J.192)	十一番乍浦船	中国版面	1巻	
282	天明3年	1783.6.13 (A.J.194)	三番乍浦船	画集	2冊	
283			四番乍浦船	絵入簾	3枚	

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

284			五番乍浦船	絵画	97枚	
285				絵画	1冊	
286			九番乍浦船	版画	12枚	
287		1783.7.30 (A.J.194)	十番乍浦船	中国古版画	1枚	
288		1783.11.24 (A.J.195)	十三番乍浦船	中国版画	30枚	
289			一番乍浦船	中国版画	154枚	
290		1783.12.27 (A.J.195)	三番乍浦船	中国版画	22枚	
291	天明4年	1784.5『清朝珍宝渡船記』	二番船	呂柳宅冊頁一個	1匣	『清朝珍宝渡船記』
292				丁南羽羅漢全	1匣	『清朝珍宝渡船記』
293				春冊一個	1匣	『清朝珍宝渡船記』
294				全手巻一個	1匣	『清朝珍宝渡船記』
295				馬扶風手巻一個	1匣	『清朝珍宝渡船記』
296				蔡文姬全一個	1匣	『清朝珍宝渡船記』
297		1784.5.28『清朝珍宝渡船記』	三番寧波船	唐伯虎溪蛟図真跡手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
298				王石谷真跡山水手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
299				馬南坪真跡花鳥冊頁	1本	(上用)『清朝珍宝渡船記』
300				呂海山真跡屏心	10幅	(上用)『清朝珍宝渡船記』
301		1784.6『清朝珍宝渡船記』	四番厦門船	花鳥画	40軸	『清朝珍宝渡船記』
302				酒繡画	2服	『清朝珍宝渡船記』
303				仇十洲清明上河図手巻	1捲	『清朝珍宝渡船記』
304				全春冊頁	2部	『清朝珍宝渡船記』
305				趙子昂西園雅集手巻	1捲	『清朝珍宝渡船記』
306	天明4年	1784.7.17 (A.J.195)	三番乍浦船	版画	10枚	
307		1784.7.29 (A.J.195)	四番乍浦船	中国版画	46枚	
308		1785.1.1 (A.J.196)	七番乍浦船	中国版画	8枚	
309			八番乍浦船	中国版画	2枚	
310	天明5年	1785.7.22 (A.J.196)	二番船	版画	1巻	
311		1785.8.6 (A.J.196)	五番乍浦船	特上絵画	18枚	
312				絵入簾	2枚	

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
313	天明5～6年	1785.11.21～1786.11.16 (A.J.197 Bijlage) 「オランダ商館日記」「バタヴィア城日誌」「東インド到着文書」 「唐船輸入品年度別目録」「唐貨物帳」等	十番船	絵画	5枚	本年秋以降「商館日記」巻末に附録 (Bijlage) として積荷目録を一括記す。
314			十一番船	絵画	5枚	
315			一番船	絵画	1巻	
316			二番船	絵画	1箱	
317			四番船	絵画	2冊	
318	天明6～7年	1786.11.21～1787.11.30 (A.J.198 Bijlage)	五番船	絵画	1箱	
319				絵画	12枚	
320				版画	1巻	
321			七番船	中国古版画	4枚	
322			八番船	版画	2巻	
323			九番船	版画	6巻	(將軍用)
324			十番船	版画	1巻	(將軍用)
325				中国版画	1冊	(將軍用)
326			十三番船	版画	9巻	(將軍用)
327				扇子	112本	(將軍用)
328			二番船	絵画	138枚	
329				版画	11巻	
330				中国版画	15冊	
331				中国扇子	100本	(町年寄用)
332				中国扇子	1本	(代官用)
333				絵画	150枚	(注文品)
334				版画	30巻	(注文品)
335			四番船	版画	11巻	(將軍用)
336	天明7年	1787.6.『清朝珍宝渡船記』	十三番厦門船 *永積p192 ?	官上加官手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
337				金滋徳手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
338				邵彌山水冊頁	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

339					厚存山水手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
340					馬琬山水手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
341					文徵明岳陽図手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
342					袁尚統捕魚図手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
343					趙子昂羅漢手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
344					張龍章白描手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
345					古墨蹟摺扇一盒	9把	(上用)『清朝珍宝渡船記』
346					全 一盒	2把	(上用)『清朝珍宝渡船記』
347					全 一盒	1把	(上用)『清朝珍宝渡船記』
348					劉松年樓閣手巻	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
349					江南北勝全図	1部	(上用)『清朝珍宝渡船記』
350					堆絨摺扇七盒	70把	(上用)『清朝珍宝渡船記』
351					鑲嵌十錦金扇三盒	30把	(上用)『清朝珍宝渡船記』
352					青綠山水冊頁	1個	(上用)『清朝珍宝渡船記』
353					兜扇二盒	四把	(上用)『清朝珍宝渡船記』
354	天明7～8年	1787.12.1～1788.11.30 (A.J.199 Bijlage)	七番船		版画	3枚	(將軍用)
355			三番船		絵画	16枚	
356			六番船		絵画	1枚	
357	天明8年	1788.『視聽草』	三番船		沈石田真跡	1軸	(上用)『視聽草』
358					文徵明全	1軸	(上用)『視聽草』
359					邵瓜疇花草	1軸	(上用)『視聽草』
360					沈石田山水	1軸	(上用)『視聽草』
361					全 蟹蘭	1軸	(上用)『視聽草』
362					全 牡丹	1軸	(上用)『視聽草』
363					明人徐元嘉菊	1軸	(上用)『視聽草』
364					御製銅板耕織図	1冊	(上用)『視聽草』
365					米南宮真跡字	1冊	(上用)『視聽草』
366					銅板内外地理全図手巻	2軸	(上用)『視聽草』
367					全掛画	1軸	(上用)『視聽草』

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
368		「オランダ商館日記」「バタヴィア城日誌」「東インド到着文書」 「唐船輸入品年度別目録」「唐船貨物帳」等		仇十洲神駿図手巻	1軸	(上用)『視聽草』
369				漢式七環水晶印章	1枚	(上用)『視聽草』
370				西湖中景図書	2匣	(上用)『視聽草』
371	天明8年～寛政1年	1788.12.1～1789.11.23 (A.J.200 Bijlage)	七番船	中国版画	2巻	(将軍用)
372			九番船	中国版画	61冊	(将軍用)
373			十一番船	中国版画	19巻	
374			十二番船	中国版画	5巻	
375			十三番船	中国版画	4巻	(将軍用)
376			二番船	中国版画	2巻	(将軍用)
377	寛政1～2年	1789.11.24～1790.11.13 (A.J.201 Bijlage)	五番船	中国版画	5巻	
378			七番船	中国版画	6巻	
379	寛政1年	1789.6.5『護送日記』	十番南京船安利船 (土佐漂着)	海幔大青緑山水圍 (圖カ) 屏心	12幅	(上用)『護送日記』
380				五綵美人図屏心	12幅	(上用)『護送日記』
381				中牟循環手巻	1個	(上用)『護送日記』
382				人物春冊	2部	(上用)『護送日記』
383				相馬図手巻	1個	(上用)『護送日記』
384				墨蹟手巻	1個	(上用)『護送日記』
385				山水冊頁	1部	(上用)『護送日記』
386				伽楠香挿屏	1対	(上用)『護送日記』
387				耕種図冊頁	1部	(上用)『護送日記』
388				名人絹面	28幅	(上用)『護送日記』
389				天台図手巻	1個	(上用)『護送日記』
390				名筆花葉手巻	1個	(上用)『護送日記』
391				沈南蘋筆掛屏	1個	(上用)『護送日記』
392	寛政1～2年	1789.11.24～1790.11.13 (A.J.201 Bijlage)	二番船	中国絵画	10枚	
393	寛政2年	1790.12.21 (A.J.202 Bijlage)	五番船	版面集	3冊	
394		1791.1.1 (A.J.202 Bijlage)	六番船	版面集	42冊	

江戸時代中国船輸入書画類一覧表

395	寛政3年	1791.7.9 (A.J.202 Bijlage)	二番船	版面集	2冊	
396			三番船	版面集	2冊	
397		1791.7.10 (A.J.202 Bijlage)	五番船	版面集	2冊	
398		1791.7.16 (A.J.202 Bijlage)	七番船	版面集	1冊	
399	寛政4年	1792.4.2 (A.J.203 Bijlage)	三番船	中国版画	2巻	
400		1792.7.8 (A.J.203 Bijlage)	四番船	中国版画	2巻	
401		1792.7.11 (A.J.203 Bijlage)	六番船	中国版画	20巻	
402		1793.1.14 (A.J.204 Bijlage)	五番船	人物画	1冊	
403		1793.1.16 (A.J.204 Bijlage)	六番船	人物画	2冊	
404	寛政5年	1793.8.27 (A.J.204 Bijlage)	八番船	人物画	22巻	
405		1793.11.24 (A.J.205 Bijlage)	三番船	中国肖像画	4冊	
406	寛政6年	1795.1.18 (A.J.206 Bijlage)	十番船	屏風	1組	
407	寛政7年	1795.4.4 (A.J.206 Bijlage)	一番船	中国絵画	1冊	
408				中国書	1巻	
409		1795.7.8 (A.J.206 Bijlage)	二番船	中国書	17枚	
410		1795.7.29 (A.J.206 Bijlage)	三番船	中国書	187枚	
411			四番船	絵画	1枚	
412	寛政9～10年	1797.11.21～1798.11.23 (A.J.210A Bijlage)	三番船	版面	1枚	
413			八番船	版面	1枚	
414	寛文10～11年	1798.11.24～1799.11.23 (A.J.211 Bijlage)	三番船	各種中国版画	30枚	
415			七番船	各種中国版画	4枚	
416	寛政12年～享和1年	1800.11.6～1801.10.27 (A.J.214A Bijlage)	六番船	絵画	14巻	
417			七番船	絵画	1450巻	
418			三番船	各種絵画	47枚	
419			三番船 (別段取引)	絵画	12巻	
420			四番船	版面	1箱	
421				扇子	200本	
422			六番船	扇子	10本	
423			八番船	版面	22枚	

通番	和 暦	出 典 (西暦)	船 名	品 名	数 量	備 考
424	享和1～2年	「オランダ商館日記」「バタヴィア城日誌」「東インド到着文書」 「唐船輸入品年度別目録」「唐船貨物帳」等	九番船	中国版画	1枚	
425		1801.62.27～1802.8.6 (A.J.215A-1 Bijlage)	十番船	扇子	8本	
426			三番船	中国版画	2枚	
427			四番船	中国版画	4枚	
428			五番船	扇子	10本	
429			六番船	扇子	30本	
430	寛政12年～享和1年	1800.『寧波船筆語 (統海外異聞十)』	五番番外寧波船万勝号 (遠州漂着)	名人山水冊頁	3個	(上用)『寧波船筆語』
431				十美图手巻	1個	(上用)『寧波船筆語』
432	享和2～3年	1802.12.23～1803.7.15 (A.J.216B Bijlage)	一番船	観音像	1個	
433			二番船	版画	2枚	
434			四番船	観音像	1個	
435			五番船	観音像	4個	
436	文化元年	1804.「文化元年唐船十一艘舶載品目・数量表」 (山脇佛二郎『長崎の唐人貿易』p.202)	11艘分	山水画 (小間物)	1枚	『村上文書差上帳』
437				名人画 (小間物)	1枚	”
438				名人画横物 (小間物)	1枚	”
439				折本 (小間物)	6冊	”
440				観音画像 (小間物)	1軸	”
441				折綿画 (小間物)	278枚	”
442				巻もの (小間物)	10軸	”
443				綸子額 (小間物)	4枚	”
444	文化3～4年	1806.12～1807.7 (A.J.220 Bijlage)	三番船	絵画	1枚	
445	文化9年	1812.8.1.「永茂号の本売荷物表」(中村 質『近世長崎貿易史の研究』p.471)。	別船 南京船 永茂号	花鳥巻物 (絹地)	1ツ	(御用)『長崎志統編』p.213
446				沈南蘋画	1軸	(御請)
447				絵絹張团扇	140本	落札人吉田屋清八
448				一番竹骨扇子	120本	落札人吉田屋清八

449	文化13年	1816 (A.J.229 Bijlage)	一番船	版画	4箱	
450			三番船	版画	9箱	
451			五番船	版画	13箱	
451			八番船	版画	21箱	
452			十番船	版画	14箱	
453			十一番船	版画	28箱	
	天保4年 1834					

凡例

- ・本書は、「オランダ商館日記」「バタビヴィア城日記」（1661～63年）及び、「東インド到着文書」（Overgekommen Brieven en Papieren uit Inidië）の中から、唐船の輸出入商品に関する記事をえらびだし、通詞がオランダ人に渡していた文書の原型、—「唐船貨物改帳」「帰帆荷物買渡帳」—への復元を試みたものである。
- ・1641・6・24（A.J.55）とあるのは、「商館日記」1641年6月24日の条にその記事があることを示し、A.J.55は、ハーグ国立文書館の新番号を示す。A.J.はArchief Japan（日本文書）の略号である。
- ・A.J.23は、Staten houdende opgave van goederen door chineese jonken aen Nagasaki aangevoerd.（中国ジャンク船により長崎に運ばれた商品の目録）と題する独立の文書で、1652～57年の目録である。
- ・「東インド到着文書」は、「商館日記」の写しの場合と、上記のように、独立した商品目録の場合がある。ハーグ国立文書館の旧架番号では、K.A.（Koloniaal Archief）となっていたが、新架番号ではV.O.C.（Vereenigde Oost Indische Compagnie＝オランダ連合東インド会社の略）と改められたので、新番号に統一した。
- ・天明5年（1785年）秋以後は、「商館日記」の巻末に附録（Bijlage）として積荷目録が一括して記されるようになる。船の到着日、出帆日が明記してある場合は、それに従って年を分けたが、それ以外は、商館長が交代する11月以降の船は、翌年度分に含めて数えてある。寛政9年（1797年）の記録が欠けているのは、そのためである。

解説

オランダ商館の中国船積載情報の入手方法

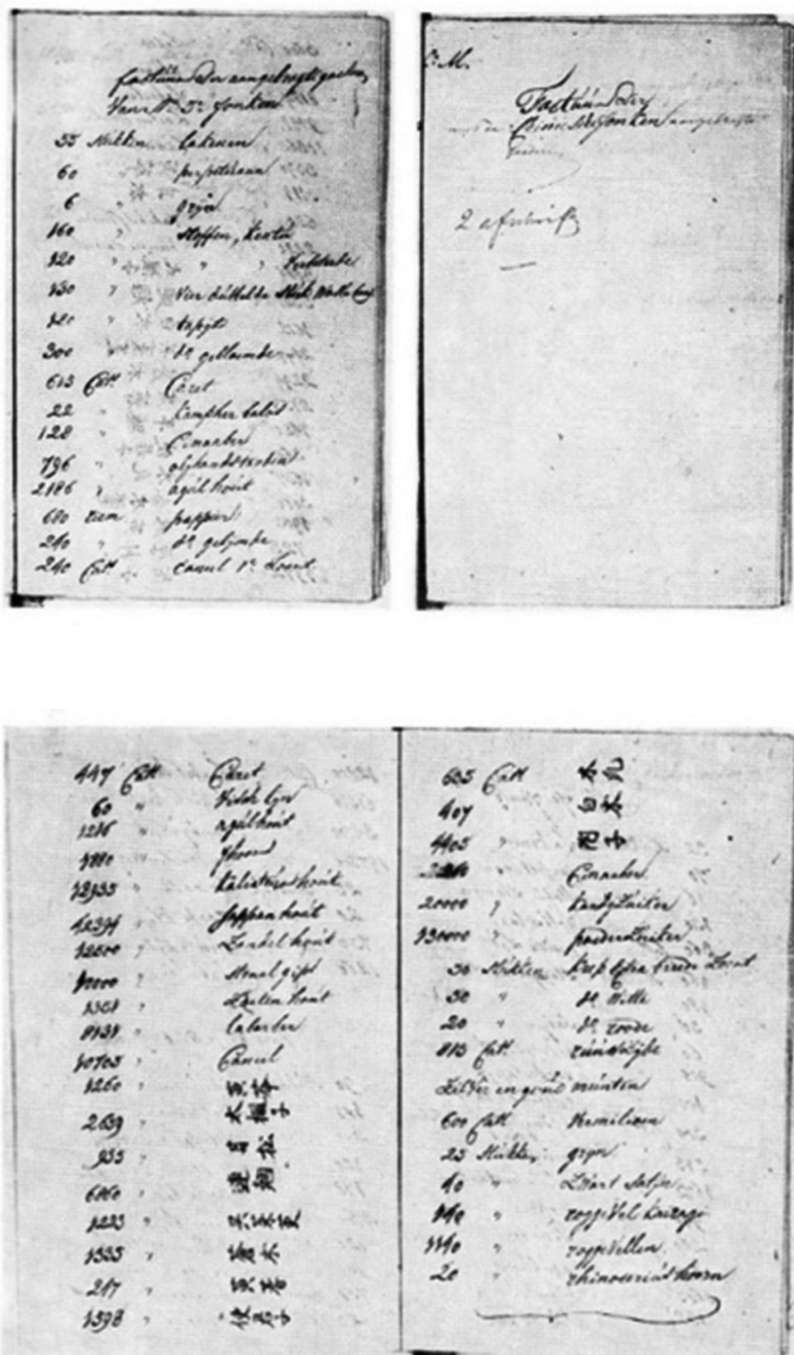
オランダ商館が平戸から長崎に移転する以前は、商館は平戸にあったので情報が得にくかったためか、或いは中国貿易の占める地位がポルトガル貿易に比べ小さかったためか、一隻ごとの記録は少なく、寛永18年（1641）鎖国体制が完成し、オランダと中国だけが日本貿易を許されるようになった後、くわしい記録が残されるようになる。

オランダ人にこれらの情報を伝えていたのは通詞達であった。たとえば、『商館日記』の1696年（元禄9年）11月2日の条に、「大通詞〔本木〕太郎左衛門が生きていた時（1695年頃）は、我々は彼から中国人のニュースの大部分を得ていた。しかし、彼の死後、長い間これが欠けていた。そこで下級商務員ウェイスの骨折りで、稽古通詞富永仁兵衛（1700年以前頃）からこれを得た。彼は密かに中国人の事をくわしく知らせ、

昨日も中国人の最後の売り出しの記録を危険を冒してウェイスに届けた。」と記している。オランダ人に好意を寄せる通詞がいなくなると、情報を集めるのも容易ではなかった。ことに1682年（天和2年）10月19日付けの長崎のオランダ商館長からバタヴィアの総督宛の書翰には、出島の門に、町のなかで行われている取引についてオランダ人に伝えることは、死罪をもって禁じると、出島に出入りを許されている日本人に対して制札が立てられた、と記されているからである。何故このような制札が立てられたのか、明らかではないが、鎖国体制が完成する頃から、幕府は外国人により日本の輸入品の価格が操作されることを常に警戒していたから、この命令は恐らくオランダ人が輸入品の市況を知ることがを防ぐためではないかと思われる。

オランダ人はこうして手に入れた積荷目録を、ジャンク帳（Jonk Boekje）と呼ばれる別の帳簿に記していたことが、1680年頃からの『商館日記』に度々書かれている。しかし残念なことに、このジャンク帳は「日本関係文書」或いは、「バタヴィア到着書簡集」に見当たらない。今後もしこれが発見されれば、中国貿易について、一層完全な記録を得ることになるだろう。

ところで、これらの情報が信用できるかどうかについては、オランダ商館長達はしばしば疑問を抱いている。そもそもオランダ人自身の貿易額について、商館の公式な記録が信用できないことは周知の事実である。例えば、総督イムホフは、1700年代に入ってから、日本とバタヴィアの間でオランダ船の沈没が目立って多くなったのは、個人の荷物の積み過ぎがその原因であろうとしている。公式の記録に現れない個人の密貿易が、この頃から増加してくるのである。むしろオランダ商館長は、自分たちの記録が事実と如何に異なっているか知っていたからこそ、中国人に関する通詞の情報の信憑性を疑っていたと言えるのではないだろうか。オランダの場合も、中国の場合も、表向きの貿易の他に行われていた密貿易を把握しない限り、その実情を正しく知ることが出来ないのは事実である。



通詞がオランダ人に渡した唐船の積荷目録（オランダ・ハーグ国立文書館所蔵）
（口絵転載）

あとがき

当初は史料に欠落のない1739年以降の期間だけを復元することを考えていたが、作業を進めるにつれて欲が出て、結局、平戸商館時代の1637年までさかのぼることになり、更に「日本関係文書」だけではなく、「植民地文書」を利用して空白を補い、また商品の価格についての史料をすべて採録した。

注

- 1 『永積・唐船輸出入品数量一覧』には輸入「漢籍」の記載も多いが、大庭脩『江戸時代における唐船持渡書の研究』（関西大学東西学術研究所、1967年）に詳細な研究があるので、「唐船輸入書画類一覧表」には取上げなかった。また、紙、毛筆・画筆、絵画用布、寺院用具、書翰箋、各種絵具などの記載も散見されるが、一覧には取り上げなかった。
- 2 中村 質氏は、「日本来航唐船一覧 明和元～文久元年（1764～1861）年」（『九州文化史研究所紀要』41号、1997年）の「緒元」の中で、オランダ側の唐船情報（『永積・唐船輸出入品数量一覧』）を見るにあたっての注意点を二つあげている。一は、長崎に入津する船の番立が、オランダ側と日本側とで必ずしも一致しておらず、『永積・唐船輸出入品数量一覧』の船が、日本側記録のどの船に該当するのか、発着日、乗員数などの記録がない限り明らかではないこと。二には、オランダ側記録の品名・数量が、それに対応すると思われる日本側資料より大幅に少ないことである。

参考文献

大庭脩著『江戸時代における唐船持渡書の研究』（関西大学東西学術研究所、1967年）
永積洋子編『唐船輸出入品数量一覧 1637～1833年—復元 唐船貨物改帳・帰帆荷物買渡帳一』（創文社、1987年）
李傑玲著『日本所蔵中日交流漢詩文写本』（黄山書社、2018年）
錦織亮介著「江戸時代の長崎来舶画人について」（『黄檗文華』139号、萬福寺文華殿、2020年）

謝辞

本稿を書くにあたり、新史料のご教示を得た台北・中央研究院の劉序楓氏、オランダ語辞典ウェブサイトと使い方をご教示いただいた明治学院大学教授の青野純子氏に感謝申し上げます。

メールアドレス rnisigori@kxa.biglobe.ne.jp